

年 組 名前：

読解力 デジタルより紙

小学低中学年 広島大が調査

小学生の紙とデジタルの問題正解率

単位は%	1・2年	3・4年	5・6年
紙	28.0	48.0	52.9
デジタル	25.8	44.5	55.7

読解力を問う文章問題を、それぞれ紙とデジタル端末で小学生に出題したところ、小学3、4年の中学年以下で紙の平均点が上回ったことが26日、広島大などの研究チームの調査で分かった。

教育現場では1人1台端末の導入でデジタルの活用が進むが、広島大学院の難波博孝教授は「文章に没入し、深く読む読解力の育成には紙の方が適している可能性がある」と話している。

調査は広島県内の小学校（対象児童284人）で実施。問題は小1の国語の教科書に載っている文章を読み、計8つの設問に答える内容で、解答はいずれも紙に記入させた。研究チームによると、小学生を対象に紙とデジタルの読解力の差を調べるのは初めて。

正解率は、低学年（1、2年）が2・2割、中学年（3、4年）が3・5割、紙がデジタルを上回った。高学年（5、6年）はデジタルの方が2・8割高かった。

「本を読むなら紙とデジタルのどちらが良いか」を尋ねるアンケートでは、6割以上が紙を選択し、学年が上がるほど増加。平均点以上の子で顕著に高く、高学年は約8割が紙を選んだ。

(2022年8月27日付 山梨日日新聞 26面)

※ **読解力**とは、**文章**を読んで、その内容を**理解**する**力**のこと。

問1 今回の調査で、読解力を身に付けるには、デジタルより紙が適していると結果が出た学年に

○を付けてください。

[] 小学1・2年 [] 小学3・4年 [] 小学5・6年

問2 この調査は、どのような問題で調査しましたか。

.....

問3 広島大学院の難波教授は、調査結果について、どのように話していますか。

.....

.....